

# 一体型水位調整弁 LF-10A・S型

## 概要

主弁とパイロット部が一体となった構造で、水槽またはタンク内の流入配管に取り付ける水没形バルブです。流入水自体の持つ水圧と、フロートの浮力、重力を利用して開閉し、開閉速度の調節はニードルバルブで行います。

差圧3mで確実に作動、水圧変化にもよく追従します。また、差圧が3m以下の場合、特殊型の無圧タイプで制御できます。



品名	口径	価格
セレナ	50	610,000
ニューオートバルブ	75	680,000
一体型水位調整弁	100	770,000
LF-10A型	150	1,510,000
内外面粉体塗装	200	2,330,000
	250	3,150,000
セレナ	300	4,990,000
ニューオートバルブ	350	別途見積
一体型水位調整弁	400	〃
LF-10S型	500	〃
内外面粉体塗装	600	〃

φ450は現在製造しておりません。

※水協検査費 別途 50~125 65,000  
150~300 85,000  
350~600 120,000

## 特長

### 1. 流体の水圧だけで作動します

流入水自体の水圧によるダイヤフラムの操作力に、フロートの浮力、重力による操作力を巧みに組み合わせ開弁、閉弁作業を行わせるため、他の補助動力を一切必要としません。

### 2. ウォータハンマの発生を抑制できます

弁の開閉速度はニードルバルブで無段階に調整でき、またパイロット弁もテーパ状になっていて緩閉作動をするのでウォータハンマの発生を抑制します。

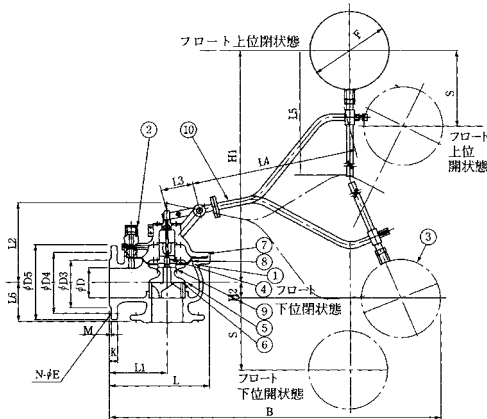
### 3. 水位設定が自由に行えます

レバーとフロートは上向きにも取り付けことができ、フロート位置もフロート軸により調整できるため、水位設定を現場で自由に行えます。またフロートの取り付け方向も自由にでき、波の影響などをさげ、マンホールなどから点検しやすいところに取り付けられます。

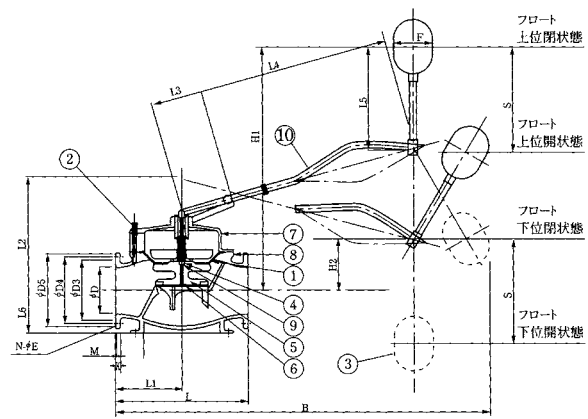
### 4. 完閉性が確実です

閉弁時は、水圧による操作力とフロートの浮力の双方で弁を弁座に押し付けるため、完閉性が十分で漏水がありません。なお、スピードパイロットを除いた主弁の構造は分離型と全く同一で、作動、圧力変化、損失水頭、キャビテーション、耐久性などに関する特長は、分離型と全く変わりません。

## LF-10A型 主弁アングル型 φ200以下



## LF-10S型 主弁ストレート型 φ250以下



## 寸法表

口径 D	フランジ寸法					フランジボルト				面間			高さ L <sub>2</sub>	支点寸法		レバー 長さ L <sub>3</sub>	フロート F	スト ローク S	水位		高さ L <sub>5</sub>	質量 kg	耐圧試験 MPa
	D <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	D <sub>5</sub>	K	M	E	呼び径	N	L	L <sub>1</sub>	B	L <sub>3</sub>		L <sub>4</sub>	最高 H <sub>1</sub>				最低 H <sub>2</sub>				
50	96	120	155	16	2	19	M16	4	184	120	918	155	50	400	477	160	160	776	294	80	17	1.75	
75	125	168	211	21	3	19	16	4	265	155	1100	220	75	450	586	200	180	976	310	106	37	1.75	
100	152	195	238	21	3	19	16	4	313	180	1250	280	100	500	628	250	200	1077	317	120	54	1.75	
125	177	220	283	22	3	19	16	6	313	180	1250	280	100	500	628	250	200	1077	317	135	58	1.75	
150	204	247	290	22	3	19	16	6	393	220	1560	360	150	676	828	250	270	1433	432	150	89	1.75	
200	256	299	342	23	3	19	16	8	480	265	1865	440	200	840	1028	250	336	1787	567	175	140	1.75	
250	308	360	410	24	3	23	20	8	700	350	1920	464	250	1000	1074	250×330	400	1865	454	228	250	1.75	
300	362	414	464	25	3	23	20	10	800	400	2175	530	300	1150	1244	250×330	460	2145	494	260	465	1.75	
350	414	472	530	26	3	25	22	10	900	450	2420	610	350	1300	1584	250×330	520	2464	536	293	645	1.75	
400	466	524	582	27	3	25	22	12	1000	500	2680	675	400	1450	1584	250×410	580	2720	575	325	800	1.4	
500	572	639	706	29	4	27	24	12	1200	600	3190	815	500	1750	1905	250×410	700	3320	695	390	1300	1.4	
600	676	743	810	30	4	27	24	16	1400	700	3690	990	600	2050	2094	250×410	820	3629	761	455	2100	1.4	

※D、H部の許容差は水道機工社内基準とする。

※D3、D4、D5、K、M、E部の寸法及び許容差はJISG5527(7.5k)-RF規格による。

但し、φ125の(7.5k)はJISB2062規格の寸法を採用し、K、M部のみJISG5527(7.5k)-RF規格のφ150を適用。許容差はJISG5527-RF規格に準ずる。

※φ50とφ125の(10k)はJISB2239規格の寸法を適用。許容差はJISG5527-RF規格に準ずる。

※L部の許容差はJISB2002「バルブ面間寸法」規格による。